

オナガ



カラス科



- 見つけやすさ：★★
- 見られる時期：1年中

背なかや尾が水色のとてもきれいな鳥です。群れでくらしています。カラスの仲間なので、声は「グーイ、グエイグエイ」とさわがしく聞こえます。

- ◆ 大きさ：ハトくらい

ワカケホンセイインコ



インコ科



- 見つけやすさ：★
- 見られる時期：1年中

赤いくちばしと、全身の黄緑色がきれいな鳥です。オスの首のまわりにある黒とピンク色の輪から名前がつけました。元々はインドやネパールにいる外来種です。

- ◆ 大きさ：ハトより少し大きい

カルガモ



カモ科



- 見つけやすさ：★★
- 見られる時期：1年中

くちばしの先の黄色や、オレンジ色の足が特ちょうです。オスとメスはほとんど同じ色をしています。水の中の水草や昆虫などの小さな動物を食べます。

- ◆ くちばしから尾まで：60.5cm

コラム④

生きものとのつきあい方

じょうけんつきとくていがいらいせいぶつ
～条件付特定外来生物について～

2023年6月にアメリカザリガニやミシシippアカミミガメ(通称「ミドリガメ」)が条件付特定外来生物に指定されました。

外来生物は、もともと日本にいなかった生きもので、外国から人によって運ばれてきました。外来生物のなかには、日本の生きものを食べてしまったり、すみかをうばったりしてしまうものもあります。外来生物のなかでも、生態系、人の健康、農林水産業への被害を及ぼすなど、とくに注意が必要なものを「特定外来生物」としています。



アメリカザリガニ

アメリカザリガニやミシシippアカミミガメも外来生物で、豊島区の池にもいます。これらは、ペットとして飼われていたものが逃がされ、野生化した個体だと



ミシシippアカミミガメ

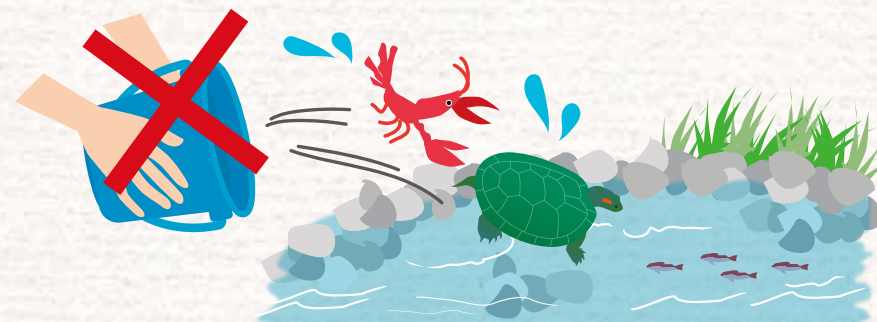
考えられます。もともと暮らしていた水の中の生きものを食べつくすようになり、条件付特定外来生物に指定されました。現在は野外に逃がすことが法律で禁止されています。今、ペットとして飼っている場合は、最後まで責任をもってお世話をしましょう。

【参考】

環境省『日本の外来種対策』

「2023年6月1日よりアカミミガメ・アメリカザリガニの規制が始まりました！」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>
(2023/8/18 参照)



ソメイヨシノ



バラ科



● 見つけやすさ：★★★

● 花の時期：3～4月

そめいむら (今の駒込3～7丁目) で、エドヒガンとオオシマザクラというサクラをかけあわせて作られたといわれています。豊島区発祥の「区の木」として親しまれています。

◆ 花の直径：およそ4cm

ツツジの仲間



オオムラサキ

サツキ

ツツジ科



● 見つけやすさ：★★★

● 花の時期：4～6月

4～5月に咲く花の大きなオオムラサキ、5～6月に咲くサツキが公園などに植えられています。ツツジは「区の花」として親しまれています。

◆ 花の直径：オオムラサキ 6～8cm
サツキ 3.5～5cm

ツバキの仲間



ヤブツバキ

サザンカ

ツバキ科



● 見つけやすさ：★★★

● 花の時期：ヤブツバキ 2～4月
サザンカ 10～12月

サザンカは花びらが落ちてしましますが、ヤブツバキは形を保ったまま下に落ちます。

◆ 花の直径：ヤブツバキ 5～7cm
サザンカ 5～8cm

スタジイ



ブナ科



● 見つけやすさ：★

● 実がなる時期：10～11月

常緑の木で、学習院に昔からある林が残っています。ドングリのぼうしは実ると割れて、ドングリが顔を出します。あくを抜かずにそのまま炒って、食べられます。

◆ ドングリの長さ：1.2～2cm

コナラ



ブナ科



● 見つけやすさ：★

● 実がなる時期：10～11月

冬に葉が散る落葉樹です。昔、燃料にするたぎや炭を作るのに使われた木です。秋にうろこもようのぼうしのドングリになります。渋くて食べられません。

◆ ドングリの長さ：1.6～2.2cm

ケヤキ



ニレ科



● 見つけやすさ：★★★

● 紅葉の時期：10～11月

街路樹として植えられる落葉樹です。昔は屋敷の周りに植えました。劇場通りや鬼子母神の参道にケヤキ並木があります。葉は秋に黄色や赤に色づきます。

◆ 葉の長さ：3～7cm

イチョウ



イチョウ科



- 見つけやすさ：★★★★
- 紅葉の時期：11～12月

中国原産の木で葉の形がカモの足に似ているとも言われています。オスとメスの木があり、メスの木になるギンナンは食用としても人気です。

- ◆ 葉の幅：5～7cm

イロハモミジ



モミジ科



- 見つけやすさ：★★★★
- 紅葉の時期：11～12月

手のひらのような形で指のような部分は5～9個になります。7個になることが多く、「いろはにほへと」と数えることが、名前の由来です。秋には美しく紅葉します。

- ◆ 葉の直径：4～7cm

シロツメクサ



マメ科



- 見つけやすさ：★★★★
- 花の時期：5～8月

江戸時代にガラスの器が割れないように詰められてオランダから送られてきました。白い花が咲くので白詰草と呼ばれるようになりました。ヨーロッパ原産で、別名クローバー。

- ◆ 花の直径：およそ1cm

ハルジオン



キク科



- 見つけやすさ：★★★★
- 花の時期：4～5月

北アメリカ原産の外国の植物です。つぼみは垂れ下がっていますが、花が開く時は上を向きます。よく似たヒメジオンはハルジオンの花が終わった頃に咲き始めます。

- ◆ 花の直径：1.5～2.5cm

セイヨウタンポポ



キク科



- 見つけやすさ：★★★★
- 見られる時期：3～9月

ヨーロッパ原産の外国の植物です。区内では日本産のカントウタンポポはほとんど見られなくなりました。種には綿毛が付いていて、風に乗って遠くまで運ばれます。

- ◆ 花の直径：3.5～5cm

カラスウリの仲間



ウリ科



- 見つけやすさ：★
- 実のなる時期：9～11月

夜にレースのような花びらの花が咲きます。カラスウリは赤、キカラスウリは黄色い実がなります。キカラスウリは冬まで実が残ります。

- ◆ 実の長さ：カラスウリ5～7cm
キカラスウリおよそ10cm

ナズナ



アブラナ科

- 見つけやすさ：★★★
 - 花の時期：3～6月
- 春の七草のひとつで、七草がゆに入れて食べます。三味線のバチのような形の実が付くので、ペンペン草ともいわれます。ペンペンとは三味線の音のことです。
- ◆ 花の直径：0.3cm

コヒルガオ



ヒルガオ科

- 見つけやすさ：★★
 - 花の時期：6～8月
- うすピンクのアサガオのような花を咲かせます。よく似たヒルガオより小さく、昼間に咲くので小昼顔です。つる植物で日当たりのよいところにはえます。
- ◆ 花の直径：3～4cm

ツクサの仲間



ツクサ科

- 見つけやすさ：★★
 - 花の時期：ツクサ 6～9月
トキワツクサ 5～7月
- 青い花を咲かせるツクサは道ばたや草地にはえます。トキワツクサは南アメリカ原産で白い花を咲かせます。冬も葉が枯れません。
- ◆ 花の直径：ツクサ 1.5～2cm
トキワツクサ 1.5cm

ススキ



イネ科

- 見つけやすさ：★
 - 花の時期：5～8月
- 秋の七草のひとつです。昔はたくさんはえていて、鬼子母神の「すすきみみずく」という民芸品にも使われました。今は線路ぎわや霊園などに少しはえています。
- ◆ 穂の長さ：15～30cm

エノコログサの仲間



イネ科

- 見つけやすさ：★★
 - 実がなる時期：エノコログサ 7～11月
アキノエノコログサ 8～11月
- 犬の尾のような穂から犬ころ草が転じてエノコログサになりました。この穂をふってネコと遊べるのでネコジャラシとも呼ばれます。
- ◆ 穂の長さ：エノコログサ 3～6cm
アキノエノコログサ 5～12cm

ネジバナ



ラン科

- 見つけやすさ：★
 - 花の時期：6～7月
- ランの仲間、小さな花がらせん状にねじれた形で付きます。ねじれていることが名前の由来です。虫眼鏡で見るとちゃんとランの形をしています。
- ◆ 花の直径：0.4～0.6cm

アブラコウモリ

ヒナコウモリ科



- 見つけやすさ：★
 - 見られる時期：4～10月
- まちの中で飛んでいるのは、このコウモリです。昼間は家のすきまなどにかくれていて、夜になると、超音波を使って昆虫をつかまえます。冬は冬眠をします。

◆ 大きさ：鼻からお尻まで4～6cm

ミシシippアカミミガメ

ヌマガメ科



- 見つけやすさ：★
 - 見られる時期：4～10月
- 目のうしろの赤い色から名前がつけられました。アメリカ大陸などからペットとして運ばれてきた外来種です。日本中で数がふえすぎて問題になっています。

◆ 大きさ：こうらの長さ27cm

ニホンヤモリ

ヤモリ科



- 見つけやすさ：★★
 - 見られる時期：4～11月
- ひらたい体で家のすき間などにかくれていて、夜になると活動します。灯りに集まってくるガなどの昆虫を食べます。周りの色の明るさによって、体の色も変わります。

◆ 大きさ：口先から尾まで14cm

ヒガシニホントカゲ

トカゲ科



- 見つけやすさ：★
 - 見られる時期：4～10月
- ツルツルとしてメタリックなうろこが特徴です。幼体の時期は黄色から青色のグラデーションが目立ちますが、成熟すると全体的に薄茶色になります。

◆ 大きさ：口先から尾の先まで20cm

ニホンカナヘビ

カナヘビ科



- 見つけやすさ：★
 - 見られる時期：4～10月
- 草むらなどにすんでいるトカゲの仲間です。昆虫やクモなどを食べます。敵におそわれると、尾を切ってにげることができ、そのあとで尾はまたはえてきます。

◆ 大きさ：口先から尾の先まで27cm

アズマヒキガエル

ヒキガエル科



- 見つけやすさ：★★
 - 見られる時期：2～11月
- 夜に活動し、敵におそわれると、耳のうしろなどから白い毒液を出します。春に、池などで卵をうみますが、卵はひものような形のゼリーの中に入っています。

◆ 大きさ：口先からお尻まで16cm

くやくしょ と 区役所の取り組み

区役所では、生物多様性を守るために、いろいろな取り組みを行っています。

「グリーンとしま」再生プロジェクト



「グリーンとしま」再生プロジェクトは、豊島区を緑いっぱいにする取り組みとして緑化活動を続けています。2022年度にはこれまでの取り組みを次の世代に伝え、更に発展させるため、区制施行90周年記念事業として、区内3か所で児童や地域の方々と植樹をする「いのち森」記念植樹2022を実施しました。

「豊島の森」環境講座



「豊島の森」環境講座では、かつての豊島区の自然をイメージして作られた区役所本庁舎「豊島の森」で、植物や生きものを学ぶ自然観察を行っています。

「みらい館大明」「いのちの森」自然観察会



区内施設の「みらい館大明」に植えられた「いのちの森」の自然観察と植物や生きものを題材とした環境講座を行っています。

プールにいるヤゴ等の生きもの学習



多くの区立小学校では、学校のプールで生まれたトンボの幼虫(ヤゴ)などを題材に、都会の中の自然と生きものについての授業を行っています。プールに入ってヤゴ等の生きものを救出し、採集したヤゴは、水槽でトンボになるまで参加した子どもたちが育てます。この取り組みの指導者は区民ボランティアで、ヤゴレンジャーと呼んでいます。

としま生きものさがし(区民参加型生きもの調査)・動植物調査



「としま生きものさがし」は、区民のみなさんに身近な生きものを調べて報告してもらう取り組みです。身近な生きものに関心を持ってもらうことで、生物多様性を感じるきっかけとしています。生物多様性の保全のため、2015年度から、専門家による動植物調査を行い、区内の自然環境、生きもの生の息状況を把握する取り組みを行っています。

いきものログ 生物情報収集・提供システム <https://ikilog.biodic.go.jp>



いきものログとは生きもの情報を集積して、みんなで共有して提供するシステムです。「としま生きものさがし」や動植物調査でみつけた生きものも「生きものログ」に登録しています。ぜひ活用してみてください。

お問い合わせ：いきものログ運営事務局
E-mail : ikilog_info@env.go.jp
TEL : 0555-72-8018
受付：平日 10:00 ~ 17:00
(土日、祝日、年末年始の12月29日~1月3日を除く)